



柴高通信



宮城県

柴田高等学校

2025.6.3

第4号

魚住優斗さん（沖野中出身） 大会新記録で 100m 優勝!!

5月23日から26日にかけて行われた県高校総体 陸上競技の男子100mで、26年ぶりの大会新記録となる**10秒45(+1.7)**をマークし、見事優勝を果たしたのは本校3年の魚住優斗さんです。強い気持ちと日々の努力が実を結んだこの快挙について、本人に詳しく話を聞きました。

——大会新記録での優勝、おめでとうございます。今のお気持ちは？

ありがとうございます。正直、ゴールした直後は「本当に自分が勝ったのか？」と信じられませんでした。電光掲示板の記録を見て、「え、10秒45？」と戸惑ってしまっただけで、先生や仲間たちの声を聞いて、だんだん実感が湧いてきました。今は、本当に嬉しい気持ちでいっぱいです。

——レース中はどんなことを意識して走っていたのでしょうか？

今回は、とにかく「肩に力を入れすぎないように」っていうのを強く意識していました。後半で力みすぎてスピードが落ちてしまうことがこれまでの課題だったので、気持ちは前に出すけれど、体はリラックスして走ろうと心がけました。特にラスト30メートルは「自然な加速」をイメージしていました。

——特に手応えを感じた部分はありましたか？

スタートも悪くありませんでしたが、後半でうまく身体が前に進んでくれて、思い通りに加速できたのが良かったです。ゴールまで一步一步、自分の走りに集中できた感覚がありました。

——この大会に向けて、どんな準備をしましたか？

技術面ではドリルやフォームの確認を大事にして、細かい動作のひとつひとつを意識して取り組んできました。特に「足を上げる」のではなく、「足を素早く下ろす」意識で走るようにしています。シンプルなことなんですけど、それを毎日やり続けるのが大事だと思っています。



——大会前、精神的にはどんな状態でしたか？

じつは、直前に行われた4×100mリレーでバトンミスがあって、東北大会に進めなかったんです。その悔しさと、仲間に対する申し訳なさが残っていて……。正直、かなりプレッシャーを感じていました。でも「ここで自分がやるしかない」と思って、その気持ちをエネルギーに変えて走りました。

——感謝を伝えたい人がいれば、教えてください。

まずは、毎日支えてくれた家族に本当に感謝しています。そして、厳しい練習も一緒に乗り越えてくれた陸上部の仲間たち、指導してくださった先生方。ひとりでは絶対にここまで来られませんでした。いつも近くで応援してくれたみんなに、心からありがとうございます。

——これから東北大会、そしてインターハイが控えています。目標を聞かせてください。

これまでインターハイには出場したことがないので、まずはその舞台に立つことが目標です。そのために、東北大会でもしっかり自分の走りができるよう、また地道に準備していきたいです。記録にも結果にもこだわらず、ひとつひとつのレースを大切に走っていきたくと思っています。

——最後に、仲間や後輩たちへのメッセージをお願いします。

陸上部の仲間たちには、いつも練習で支えてくれてありがとうございます。速くなるための雰囲気と一緒に作ってくれて、本当に感謝しています。

陸上競技部 15名 が東北大会へ出場決定!!

県高校総体陸上競技において、本校陸上競技部は多くの種目で入賞を果たし、15名の選手が東北大会への出場を決めました。日頃の練習の成果を発揮し、個人・団体ともに素晴らしい結果となりました。

以下が、東北大会出場を決めた種目と選手たちです。

【男子】

- ・100m 1位 魚住 優斗（沖野中出身）
- ・400m 6位 及川 航輝（岩沼西中出身）
- ・800m 3位 小梨 渉（角田中出身）
- ・5000m競歩 1位 村上 柚乃介（小原中出身）
- ・走幅跳 2位 浅野 開登（階上中出身）
- ・砲丸投 4位 加藤 那崇（仙台一中出身）
- ・ハンマー投 5位 加藤 那崇（仙台一中出身）
- ・4×400mリレー 2位

佐々木 龍正（富沢中出身）

佐々木 柚太（袋原中出身）

魚住 優斗（沖野中出身）

及川 航輝（岩沼西中出身）

【女子】

- ・100m 6位 千葉 南彗耀（岩沼北中出身）
- ・走幅跳 6位 大橋 詩織里（郡山中出身）
- ・三段跳 3位 大橋 詩織里（郡山中出身）
- ・砲丸投 5位 鹿野 姫夏（逢隈中出身）
- ・円盤投 4位 鹿野 姫夏（逢隈中出身）
- ・ハンマー投 2位 鹿野 姫夏（逢隈中出身）
- ・ハンマー投 4位 松浦 瑠璃（名取二中出身）



これらの選手たちは、6月13日（金）から16日（月）に青森市で開催される東北高等学校陸上競技大会に出場します。東北の舞台でも自分の力を信じて、堂々とした競技を見せてくれることでしょう。

今後とも、陸上競技部へのご声援をよろしくお願いいたします。

インターハイを目指す魚住さんの姿は、多くの生徒に勇気と刺激を与えてくれるはずです。今後の活躍にも、大きな期待が寄せられます。

生徒の力で学校を動かす～令和7年度春季生徒総会 実施報告～

5月22日（木）の7校時に、令和7年度春季生徒総会が本校第一体育館で行われました。生徒会執行部が中心となって運営されるこの総会は、前年度の会計報告や今年度の予算案の審議、各種委員会および部活動の活動計画の報告などが行われる、生徒の自治活動の中核となる行事です。



生徒会執行部のみなさん



各部・委員会の代表のみなさん



議長と副議長による議事運営



生徒会長の米谷君

1. 会計報告・予算審議

前年度の生徒会費の決算および監査報告に続き、今年度の予算案についての説明と審議が行われました。

生徒たちは資料を確認しながら、学校生活に関わるお金の流れを真剣に受け止めていました。すべての議案は承認されました。

2. 各委員会からの年間活動計画報告

各委員会からは、学校をより良くするための目標と具体的な取り組みが発表されました。

生活委員会：「**良い一日が始まるような挨拶を**」を目標に、あいさつ運動やマナー啓発を推進。

図書委員会：読書週間やテーマ展示を企画し、「**本に親しむ機会を広げたい**」と意欲を表明。

選挙管理委員会：公正な選挙運営を通じて、生徒の自治意識を高める活動を展開予定。

保健委員会：感染症対策や保健掲示の充実を通じて、健康的な学校環境を目指す。

美化・交通安全・給食委員会など：日常の中から学校全体を支える視点での活動が語られました。

3. 部活動からの発表

各部活動からは、目標と年間計画が発表されました。

野球部：「**甲子園で校歌を歌う**」という夢を力強く宣言。

ウェイトリフティング部：「**全国大会での団体優勝**」を目指して努力を続けていくと報告。

吹奏楽部：「**多くの人に音楽を届けたい**」と、地域行事等への参加も視野に入れた活動を予定。

● 総会を通して

発表の場に立った生徒たちは、それぞれの役割や目標について丁寧に説明しようと努めていました。

学校生活の一つひとつの活動がどのように成り立っているのかを確認し合う、有意義な時間となりました。

初めての音色、心に響く時間

吹奏楽部 第1回定期演奏会を開催しました

6月1日（土）、仙南芸術文化センター（えずこホール）大ホールにて、本校吹奏楽部の「第1回定期演奏会」が開催されました。創立40年を迎える柴田高校にとって、吹奏楽部の演奏会はこれが初めて。記念すべきステージとなりました。

当日は、2年生で部長の増子愛未花さん（フルート、船岡中出身）が欠席となりましたが、1年生の酒井奏那さん（トランペット、槻木中出身）、大泉和花さん（トロンボーン、岩沼西中出身）、顧問の山本浩人先生の3名で舞台に立ちました。直前の不安や緊張を乗り越え、ステージに立つ1年生たちの表情は真剣そのもの。演奏が始まると、会場全体がその初々しくも一生懸命な音に耳を傾けました。

プログラムは、体を使って音楽を感じるボディパーカッションからスタート。手拍子や足踏みのリズムがホールに響き、緊張気味だった空気も次第に和らいでいきました。続くステージでは、聞き覚えのある楽曲を使った音楽クイズや、部員によるソロ演奏も披露。観客の反応を感じながら演奏を重ねるうちに、生徒たちの表情にも自然と笑顔が広がっていきました。



お疲れでした。

ラストの合奏では、3人が心をひとつにして音を重ねました。演奏には、生徒たちの真剣な思いや日々の努力が込められており、そのひたむきな姿が会場にしっかり伝わってきました。演奏後には大きな拍手が贈られ、客席と舞台が一体となる温かな空気が生まれました。

部員数わずか3名（当日は2名）の吹奏楽部ですが、「今できることを精一杯やろう」という思いが、この演奏会のすべての音に込められていました。人数では測れない、音楽の力と向き合う真剣な姿が印象的な演奏会でした。

この定期演奏会が、生徒たちにとっても本校吹奏楽部にとっても、新たなスタートになりますように。今後の活躍と成長に、ぜひご期待ください。